

(ほけんだより) ～保護者の方へ～



貝塚市立
東山小学校
★保健室★
No.17
平成23年10月18日

朝晩と昼間の気温差があり、体がまだまだ気候の変化に追いついてない子どもたちが多く感じます。これから冬に近づくにつれて、風邪やインフルエンザも流行する季節になります。手洗い・うがい、そして咳がではじめたらマスク着用で感染予防をよろしくお願いします。

長引くせき！マイコプラズマ肺炎^{はいえん}にご用心！

* 症状 *

- ・熱が少しづつ高くなっていく ・高熱や微熱
- ・全身の倦怠感 ・頭痛
- ・2～3日後にたんを伴わない乾いた強い咳
→夜間に激しく出ることが多い

* 感染経路 *

- ・咳やくしゃみなどによる飛沫感染

* 予防方法 *

病気になる前に…

- ・早寝、早起き、しっかり朝ご飯の規則正しい生活
- ・手洗い、うがい

病気がなってしまったら…

- ・マスクの着用
- ・他社との接触を控える、人ごみを避ける

2011年、 マイコプラズマ肺炎 患者が過去5年間で 最多!!

例年、冬に流行するマイコプラズマ肺炎患者が今夏急増し、高止まりしていることが29日、分かった。国立感染症研究所に毎週報告されている患者数は6月下旬に最多となった後、9月に再び更新。現在も昨年の2倍で推移している。通常は夏に増えても秋には減るのに対して、むしろ増えてきていることから、注意が必要だと指摘されている。
<H23.9.29 朝日新聞>

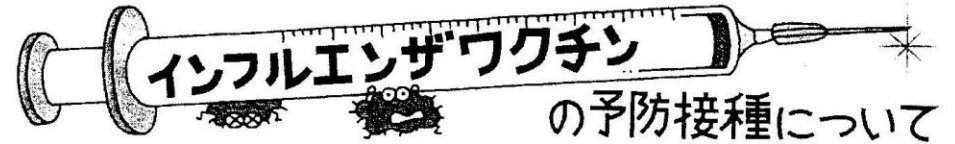
※マイコプラズマ肺炎の場合、抗生剤などでは咳がなかなか治ることがないと言われています。咳が2週間以上続く場合は、もう一度医療機関を受診するようにして下さい。

～学校医*いづみ診療所 林先生に伺ってみました～

- ◎今年度流行しているマイコプラズマ肺炎の中には、今までマイコプラズマ肺炎に有効であった薬が効かないものが流行しつつある。
- ◎簡易検査ではその日に結果が出るが、マイコプラズマ肺炎は潜伏期間が1～3週間と長いので、検査した際に陰性でも、数日後に陽性になっている場合がある。
- ◎血液検査やX線検査などで、診断できるが、必ずそのときに結果が出るとは限らない。
- ◎咳が出始めたら、マスクなどをして感染が広がらないようにすることが大切。(※疑いの場合には特に)
- ◎なかなか咳がなくならない場合には、もう一度受診するようにして下さい。

～本校でも数名、感染の疑いがある子どもがでてきています。感染の拡大・予防のためにご協力をお願いします～

～これから流行するインフルエンザに備えて～



前年度まで、新型インフルエンザ(a/H1N1)と呼ばれていたものは、2011年4月1日から、通常の季節性インフルエンザに変わりました。

今年度のインフルエンザワクチンの摂取の予約が始まる季節になってきました。ワクチン接種で感染を100%防ぐことはできませんが、感染しても重症化するのを防ぎ、周囲への感染拡大を抑えることが期待できます。自分の体調や体質、副作用などを考慮して、ワクチン接種するかどうかを決めることが大切です。

☆今季のワクチンの特徴は…

- ※前年度と同じ、新型と季節性2種類の計3種類に対応する「3価ワクチン」
- ※小児のワクチン摂取用量が増えたこと。 の2点があげられる。

《小児接種用量の変更について》

今まで	1才未満	: 0.1ml	今年度	
	1～5才	: 0.2ml	6ヶ月以上3才未満	: 0.25ml
	6～12才	: 0.3ml	3才以上	: 0.5ml
	13才以上	: 0.5ml		に変更になりました。

■今季のインフルエンザワクチンのポイント

- ① 前年度と同じ、新型と季節性を一つにまとめた3価ワクチン
- ② 小児の接種用量が、WHOの推奨接種用量に引き上げられ、接種用量が増えました。
- ③ 昨年までは最短1週間の接種間隔で受けることができたが、今季からは最短でも2週間の接種間隔に。
- ④ 接種は13歳以上が1回、13歳未満は2回
- ⑤ 昨季の感染者、ワクチン接種者も、免疫力が低下しているため、改めて接種した方がよい

接種についての詳細や方法等は、接種する各医療機関でお尋ね下さい。

これからは、インフルエンザ・ロウウイルス等も流行する季節になります。そのつど、ほけんだよりなどで発信していきたいと思っております。ぜひ、ごらん下さい。